

読

Yomiuri
Nippon
Symphony
Orchestra

響

永遠の愛、彼方の閃光。

メシアンが最晩年に遺した 大管弦楽による人間讃歌

この瞬間よ、永遠なれ！
奇跡のような美しい星に生まれて。

指揮 **シルヴァン・カンブルラン**
メシアン：彼方の閃光

コンサートマスター 長原幸太

★ 読売日本交響楽団 第566回 定期演奏会

2017 **1.31** (火) 19時開演 **サントリーホール**

S¥7,500 A¥6,500 B **SOLD OUT** C **SOLD OUT**

読響チケットセンター 0570-00-4390 (10時-18時・年中無休/年末年始を除く)

<http://yomikyo.or.jp/>

主催：読売新聞社、日本テレビ放送網、読売テレビ、読売日本交響楽団 協賛：NTTコミュニケーションズ
助成：文化庁文化芸術振興費補助金(舞台芸術創造活動活性化事業)、公益財団法人アフィニス文化財団  協力：アフラック

SUBSCRIPTION CONCERT No. 566 / Tuesday, 31st January 2017 19:00 / Suntory Hall
Conductor: SYLVAIN CAMBRELING / MESSIAEN: Éclairs sur l'au-delà / Concertmaster: KOTA NAGAHARA

Hitaki to the World

SUNTORY HALL


いまここで生きていること

小沼純一(音楽・文芸批評家/早稲田大学教授)

いらだったり疲弊したり飽いたり。そんな日々をおくっている。それがあたりまえになっている現在でも、ふと、おもいだしてみるといい。コンサートホールでは、多くの音楽家たちが、ひとりの老齢の作曲家が「彼方」への幻視を一音一音五線紙に記しつづけた記号を、音楽として、聴くものへの「彼方」への誘いとして、ひびかせる。ひびかせることがありうる。

《彼方の閃光》。

メシアンは彼方を幻視する。いま・ここで全身に音楽を感じながら。それはヒトだから、生身のヒト、被造物のなかでもヒトだからこそ、とのおもいからかもしれない。

ほとんどの楽章は静謐で、メロディーと並行する楽器たちの色あいはゆっくりした呼吸のよう——耳をかたむけているわたし・わたしたちの呼吸に寄り添う。わたしたち、生きているものたちに親しい、いや文字どおり生きているものたちのもの。いまここで生きていることの、生の肯定がこめられている。ヒトの手からはなれた、いたずらに人工的な美ではなく。

鳥たちとことばを交わした中世の聖人をオペラにしたメシアン。オペラの後にさらに生みだされた「彼方」をみはるかそうとする《彼方の閃光》。ヒトはきっと、いま・ここにいながら、彼方を志向するヒトという生きもの、そうしたものを音楽として実現させることができる生きものなのだ。そしてその20世紀末の巨大な成果をメシアンに、《彼方の閃光》に、《アッシジの聖フランチェスコ》に聴く。



シルヴァン・カンブルラン(指揮)

色彩豊かな音楽作りで、読響を世界のトップレベルへと導く名匠。1948年フランス・アミアン生まれ。2010年から読響常任指揮者を務め、古典から現代まで幅広いレパートリーを演奏し、既に高い評価を得ている。現在、シュトゥットガルト歌劇場の音楽総監督を務めるほか、クラングフォーラム・ウィーンの首席客演指揮者も兼任している。ベルギー王立モネ歌劇場とフランクフルト歌劇場の音楽監督、バーデンバーデン&フライブルクSWR響の首席指揮者を歴任。ベルリン・フィルなど世界の一流楽団に客演している。2017年11月には、読響とメシアンの超大作オペラ「アッシジの聖フランチェスコ」(演奏会形式)を全曲日本初演する。

©読響

ntt.com



**Transform your business,
transcend expectations
with our technologically
advanced solutions.**

想像を超えるスピードで進化するAIやビッグデータ、IoTの世界。今、求められているのは、既成の枠組みや概念を取り払い、全てを変革する力。私たちはその力を、スマートなICTソリューションで届けたい。お客様の期待を超えて、ビジネスの新しい未来をかなえるために。

